

令和6年度 職員自己評価

自己の評価は、日頃保育に関わっている者として自分の保育を確認し、気づき問い直すきっかけを作るものと考えており、評価の判断基準は自分です。自分の保育を客観的に見て改善し、職員みんなで共通の意識を持つ様にしており、以下の項目を自身で評価しました。

評価方法は、A、十分理解している（十分出来ている）B、理解している（出来ている）C、努力が必要な3段階です。

内	容
◎ 子どもの発達	
①	保育指針に基づく子どもの発達過程のおおむね8つの区分を理解し、一人一人の発達に合わせ援助していくことの重要性を理解している。
②	発達過程に「おおむね」がつくことで、個人の発達には幅があり、前後の年齢に繋がりをもって成長している事を理解している。
③	家庭環境の差、身体能力の差、精神的成長の差から生じる、子ども一人一人の違いを理解している。
④	一人一人とコミュニケーションをとり、信頼関係を築いている。
⑤	自分を表現する力が十分でない子供の気持ちを汲み取るようにしている。
⑥	禁止語を不必要に用いないようにしている。
⑦	登園時に泣く子に対して、子どもの状況に応じて優しく声を掛けたり、抱きしめたりしている。
⑧	日々の生活の中で、子どもが安心感と自己肯定感を持てるような言葉がけをしている。
⑨	子どもの心身の癒しがなされるように配慮されている。
◎ 保育の内容	
①	一人一人の健康状態や発達について把握し、異常に気付く事が出来る。
②	個人と集団で行う活動の違いを熟知し、子ども達が人間関係を築ける機会を作っている。
③	個性、特性を十分に理解すると共に子ども達が自ら発言できる機会を作っている。
④	相手の言葉に耳を傾け、意見を尊重出来るよう子ども達に指導が出来る。
⑤	人の命の尊さを教え、他者をいたわり大切にする気持ちを養う保育が出来る。
⑥	大きな自然、小さな自然、あるいは街中の様子などから、まず保育士自身が季節の変化を感じ取る感受性を大事にしている。
⑦	子どもの知的要求の変化に気づき、探求心、知的好奇心を満たしたり、引き出したりするような会話や配慮をしている。
⑧	保育士自身が豊かで美しい言葉を使用し、思いを込めて会話するよう心掛け、人の話を聞く態度を身に付けさせることが出来る。
⑨	子どもが、自分の話を十分聞いてもらった、伝わったという楽しさや満足感が持てるように配慮している。
⑩	基本的な生活習慣に基づいた挨拶など、日常生活に必要な言葉を丁寧に使う事が出来る。
⑪	子ども達の興味や関心に沿った絵本や物語を用意出来る。
⑫	探求心を満足させ、観察力を育てる保育の環境設定に配慮している。
⑬	日々の保育の中で、感動や発見が出来るよう、変化に富む保育内容に配慮している。
◎ 保育の計画及び評価	
①	目標は、前年度の反省を生かしている。
②	目標は、全員で検討し、かつ共通理解を図っている。
③	保育過程に基づいた具体的な指導計画を作成出来る。
④	各年齢の発達段階を理解し、それぞれの年齢に合った指導計画であり、個々の発達にも留意した物を作成できる。
⑤	保育士は、自らの保育実践を振り返り評価し、専門性の向上や改善に努めなければならない事を理解している。（計画・実施・評価・改善）
◎ 健康及び安全	
①	子どもの感染症やその他の疾病についての知識を持ち、必要な援助が出来る。
②	基本的なアレルギーの種類（食物・接触・薬）や特性について理解している。
③	無理なく好き嫌いをなくす援助が出来る。
④	食べることの意味や命について考える機会を作っている。（人の命、動物の命、植物の命）
⑤	食事のマナーを子供や保護者に伝えられる。
◎ 保護者に対する支援	
①	日々、信頼を得られる行動をしている。
②	保護者の思いを受け止め、様々な思いの相談・依頼に適切に対応している。
③	保護者の話を落ち着いて聞き、状況、問題点を把握できる。
④	手紙、公文書などの基本的な書き方を知り、誤字、脱字の無い内容が正確に伝わる文章が書ける。
⑤	早番や遅番で保護者からの伝達事項がある時は、メモを取り、確実に担任に伝えている。
⑥	職員会議等で各クラスの状況報告を聞き、担任ではなくても各クラスの様子を把握している。
⑦	保護者、入所児童、又職場に関する秘密は絶対に他言しない。

◎ 職員の資質向上

- ① 保護者、来客に対して季節・時間に合わせた好感の持てる挨拶が出来る。
- ② 正しい言葉使いが出来る。
- ③ 電話が鳴ったら早く出るようにしている。
- ④ 電話の要件は間違えないようメモに残し、確認や伝達を行っている。
- ⑤ 周囲の人や来客に清潔感を与える応対や身だしなみを実践している。
- ⑥ いつも笑顔で対応できる。
- ⑦ 子どもの発達段階を意識し、活動的で子どもが心地よく感じる服装を心掛けている。
- ⑧ 髪が顔にかかったり、爪が伸びたり等、不衛生にならないよう日頃から心掛けている。
- ⑨ 睡眠を十分にとり、勤務に支障をきたさない規則正しい生活を送っている。
- ⑩ 体調異常の時は、速やかに通院している。
- ⑪ 日常生活で、保育士としての度を越す言動をとらない。
- ⑫ ハラスメントや虐待など保育士にあるまじきことをしない。
- ⑬ 保育園及び職員の不満を他言しない。
- ⑭ 勤務開始時間の10分以上前に出勤している。
- ⑮ 指導計画をもとに、日々の乳幼児の状況に沿った保育をしている。
- ⑯ 毎朝行事予定表・日案に目を通し確認、記憶している。
- ⑰ 自ら進んで勤務を完全遂行する、積極的な姿勢がある。
- ⑱ 担当勤務以外でも自ら気づき、声を掛けあい協力している。
- ⑲ 会議などで積極的に発言出来る。
- ⑳ 「みんながやっているから」「以前からの慣例だから」という思いにとらわれない。
- ㉑ 自分だけの不都合かどうか、客観的に見る事が出来る。
- ㉒ 人間としての資質を磨く様に努力する意欲がある。
- ㉓ 保育士としての基本である研修に取り組む意欲を持っている。
- ㉔ 苦手な分野の情報や研修を知ろうとする意欲がある。
- ㉕ 保育行政や他施設の保育内容に関心がある。
- ㉖ 保育に関する情報誌、専門書またはインターネットなどの外部情報を取り入れてる。
- ㉗ 研修報告などで気づいた事を自分の業務に反映出来る。
- ㉘ 他人の意見に耳を傾け「聴く」という事が出来る。
- ㉙ 相手がどのような思いで意見を発し、行動を取ったか考える事が出来る。
- ㉚ 保護者の様々な職業を理解し、相手の立場に立った考え方が出来る。
- ㉛ 長時間保育の保護者にねぎらいの言葉をかけている。

☆ 評価結果

自己評価を毎年行う事で保育者が評価項目の内容を把握して保育を行っている事が伺え、経験年数が増えると共に自己の評価もあがっています。今年度採用保育者は、子ども達や保護者の方との接し方や保育について考える機会となり、職員全体で自己を振り返り、保育者としてあるべき姿を再確認致しました。評価は概ねA、十分理解しているとなっています。

以下は評価内容についてです。

◎ 「子どもの発達」について

子ども達への言葉がけについて、子ども達と長い時間を過ごす中で、友だちの様に遊び、笑い、様々な事を共に経験し、教えたり、促し、時には叱る事もあり、言葉の使い方も口調も場面によって違い、一人一人に適した声掛けもある為、どう伝えるかを考える事が必要です。保育者からは「優しく子ども達と語り合う」「穏やかに笑顔で接する」「丁寧な言葉を使い、一呼吸置きながら子ども達と関わりを持つ」「子ども達の声や沢山聴き、否定せずに関わる」と自己の思いをあげており、昨年よりもA評価が増え、正しい言葉遣いを常に意識している事が伺えます。丁寧に、優しく、正しい言葉遣いを基本に、子ども達の発達を促すためにも「言葉」がとても大切である事を、評価結果を踏まえ改めて話し合いました。

◎ 「保育の内容」「計画及び評価」について

普段の保育では様々な教材に触れる機会を持ち、「どう使うか」「どう表現するか」子ども達の思いを引き出しながら「表現する力」が身に付くように進められており、0歳児からそれぞれの成長に繋がるような指導計画のもと、実践するにあたり個々の発達に応じた援助も心掛けている事が伺えました。職員間の協力体制と、子ども達の成長過程の共有を大切にしています。

◎ 「健康及び安全」

アレルギーに関しては、調理室と保育者が連携を取り幾重にもチェック項目が設けられている事で、安全面の体制が保たれ、意識付けられています。窒息に関しても、食事の摂り方について配慮がされていきました。食育に力を入れていく、様々な小児の感染症について研修を受けたり、知識を身に付けていきたいとの思いがありました。

◎ 「保護者に対する支援」

お子さんの園での様子を伝えていく事から信頼関係の築きに繋げていける様に、又、保護者の方の育児に関する不安や困りごと子育てに関してを共有出来る様にと考えています。連絡漏れ等ない様に注意していました。

◎「職員の資質向上」

自分自身に関して、「笑顔でいられる事」「健康管理」「積極的な姿勢」等、ほぼ A 評価であり、心掛けている事が伺えます。研修、参考資料、意見交換等から知識を深めたいと考えられています。

☆ 上記の評価を踏まえたうえで、職員の良いところ、自分自身が心掛けている事や今後の課題について。

(抜粋)

- ・ 明るい、元気、笑顔、思いやりがある。
- ・ 職員の協力体制が取れており、疑問に思う事に関して理由と共に丁寧に教えてくれる保育者がいる。
- ・ 声を掛け合い、連携を取りながら保育が出来る。

- ・ 笑顔で保護者に対応している。園での様子を様々な方法でお伝えしている。
- ・ 子ども達と笑顔で接し、沢山の声を聴き、否定せずに関わる。
- ・ 何が正しいのか子ども自身が考える機会を作り、共に考え伝えていく。
- ・ 活動を一緒に楽しむ。一緒にやってみよう等、明るい声掛け。
- ・ 子ども達の自由な発想を形にする。言葉にすることで自己表現に繋げていく。

- ・ 見通しを持って計画を立て、担任間の確認をする事や他クラスとの認識の共有を積極的に行う。
- ・ 毎年同じではなく、今現在の子どもの姿をしっかりと見て保育を進めていけるよう、全体で声を掛け合いながら職員同士が補い合っていけるようにする。
- ・ 子ども達の見守りについて広い視野を持ち、足りないところがあれば積極的に職員に声を掛け協力体制を取っていく。